

# がっこう めだかの学校



## ● れきし 歴史

めだかの学校は日本全国で歌い親しまれている童謡で、茶木 滋さんが作詞を  
されました。昭和25年(1950年)にNHKから童謡を作ると依頼を受け、  
茶木さんは当時、小田原市荻窪周辺に住んでいて、息子さんと買い物途中で  
のやり取りを基にして、作られたそうです。

その後、日本中に知れ渡り、昭和29年(1954年)には文部省 芸術選奨  
文部大臣賞を受賞し、平成19年(2007年)には文化庁が選定した、日本の歌  
百選に選ばれ、この荻窪用水周辺には昭和63年(1988年)に、めだかの学校  
の歌碑が建てられました。

この小川に生息しているのは、黒めだかの一種の小田原めだかです。この小田原  
めだかも、かつてはたくさん生息していましたが数が減ってしまい、小田原市では

希少種となった小田原めだかを保護する活動をしています。

昔は日本中の川や池などに生息していましたが、現在は一部の地域でしか野生の姿を見ることが出来なくなっています。原因として、農薬や河川の改修工事により、その数が激減したと言われています。

## ● 地域との関わり

めだかの学校に流れる小川の事を、狹窪用水路と言って、箱根町の早川から引いていて、全長は10.3Kmほどあります。

水路を作り始めたのは天明2年(1782年)、当時お米は貴重なもので、狹窪は水不足により田んぼが作れず、貧しい地域だったと言われています。

そんな狹窪に仕事で立ち寄った農家の、川口廣蔵が困っている住民を助けようと

思い、作る事を決めました。川口廣蔵は以前にも水路を作る工事を経験してい

て、知識がありました。箱根町の早川から水を引くことで水路が通ることになる、

入生田、風祭、板橋、水之尾に住む人達にも参加してもらい、5つの地域が

協力して工事が始まりました。

工事はとても大変だったと言われていますが、20年後の、享和2年(1802年)

に完成しました。この水路が出来たおかげで、5つの地域に合計で、70町歩

(町歩は農業で使われる面積を表す単位です。1町は1辺が約100mの正方形

で、面積は約1万 $m^2$ 。70町歩の面積は約70万 $m^2$ あり、畳42万枚分の広さ。)

の、<sup>た</sup>田んぼが<sup>つく</sup>作れるようになり、<sup>こめ</sup>たくさんのお米が<sup>でき</sup>出来ました。

<sup>げんざい</sup>現在では<sup>ゆもと</sup>湯本にある<sup>やまざきはつでんしょ</sup>山崎発電所で、<sup>すいりょくはつでん</sup>水力発電にも<sup>りよう</sup>利用されていて、<sup>ひとびと</sup>人々の役に<sup>やく</sup>たっています。

この<sup>おぎくぼようすいろ</sup>荻窪用水路が<sup>な</sup>無かったら、<sup>がっこう</sup>めだかの学校の<sup>うた</sup>歌も<sup>な</sup>無く、<sup>おぎくぼ</sup>荻窪も<sup>ます</sup>貧しいままだっ  
たかもしれません。

## ● 関連するスポット

・<sup>おな</sup>報徳<sup>おだわら</sup>二宮<sup>ちいき</sup>神社…<sup>おな</sup>同じ<sup>おだわら</sup>小田原<sup>ちいき</sup>の地域で、<sup>ひとびと</sup>人々に<sup>かか</sup>関わった<sup>ひと</sup>人や、<sup>ところ</sup>ところ。

・<sup>おな</sup>二宮尊徳<sup>おだわら</sup>記念館…<sup>おな</sup>同じ<sup>おだわら</sup>小田原<sup>ちいき</sup>の地域で、<sup>ひとびと</sup>人々に<sup>かか</sup>関わった<sup>ひと</sup>人や、<sup>ところ</sup>ところ。